

ここが Point!

名詞の前に置くのと後ろに置くのでは意味が異なる形容詞

- **responsible** : (前) 信頼できる／(後) (…に対し) 責任がある

Jonathan is a **responsible man**. ジョナサンは信頼できる男だ。

The police are tracking down *the man responsible (for the serial killings)*. 警察は、(連続殺人の) 犯人を追っている。

- **concerned** : (前) 心配そうな／(後) (…に) 関係がある

She had a **concerned look** on her face. 彼女は心配そうな顔を見せた。

All *people concerned* understood the seriousness of the problem.

関係者はみな、問題の深刻さを理解していた。

- **present** : (前) 現在の／(後) (…に) 出席している

This rule is applied to the **present staff members**.

この規則は、現在の職員に適用されます。

The staff members present were all surprised at the news of a merger.

出席していた職員は、併合の話に一様に驚いた。

後ろに置かれた場合は、who [which] isなどを補って考えれば叙述用法とみることができ、意味の違いを捉えやすくなるだろう。〔限定用法と叙述用法で意味が異なる形容詞については pp.554-558 参照〕

コーパス その他、よく後置される形容詞（句）としては他に以下のようなものがある。

available (利用できる), **close to A** (A に近い),

full of [with] A (A でいっぱいの),

familiar with A (A を熟知 [A に精通] している),

in every way possible (可能な限りの方法で)

類例 The amount of information **available** on the Web is vast and changes so quickly. ウェブ上で利用できる情報量は莫大で変化も早い。

It's difficult to walk into a room **full of** strangers.

知らない人でいっぱいの部屋には入って行き難い。

❸は〈SVC〉の文型で、補語(C)のinterestingが主語(S) his bookの性質について説明している(=主格補語)。

一方、❹は〈SVOC〉の文型で、補語(C)のinterestingが目的語(O) his bookの性質について説明している(=目的格補語)。

類例 It's already two. *You* must be **hungry**. もう2時よ。おなか減ったでしょ。

They won't even tell me the reason. That makes *me* **mad**.

連中ときたら、理由も教えてくれない。だから頭にくるんだよ。

I don't feel **well** today. 今日は具合がよくない。

Atsuko colored *her* hair **brown**. 敦子は髪の毛を茶色に染めた。

コーパス 叙述用法の形容詞を用いた慣用表現

be capable of doing (…する事ができる), be certain to do (きっと…する),

be dependent on (…に依存している),

be different from [(主に米) than, (英・主に話) to] (…と異なっている),

be familiar to (…によく知られている), be familiar with (…に詳しい),

be grateful for (…に感謝している), be ignorant of [about] (…について知らない),

be independent of [from] (…から自立・独立している), be peculiar to (…に特有である),

be similar to (…に似ている)

ここが Point! be familiar with / to

〈A〈人〉 is familiar with B〈モノ・事〉〉 (A〈人〉が B〈モノ・事〉に詳しい) と 〈B〈モノ・事〉 is familiar to A〈人〉〉 (B〈モノ・事〉は A〈人〉にとってなじみがある・BはAによく知られている) は区別しておこう!

I'm sorry, but I'm not **familiar with** your work.

すいません、あなたの仕事についてはよく存じ上げておりませんもので。

That melody **is familiar to** me. あのメロディは聞き覚えがあります。

〔I'm familiar with that melody. では、「そのメロディもすべて知っており演奏の仕方もわかる」といった熟知を暗示してしまう〕

2 叙述用法のみの形容詞

8 Jiro fell **asleep** on the bus. 次郎はバスで居眠りしてしまった。

846

9 My father and I look **alike**. 父と私は似ている。

847

形容詞の中には叙述用法でしか使えないものがある。上の例にある **asleep** (眠っている) や **alike** (似ている) といった形容詞には限定用法がない。よって名詞の前には置けない。

類例 I'm **afraid** of walking **alone** in the dark. 暗がりを1人で歩くのは怖い。

I hope you will get **well** soon. すぐによくなれますように。

注意しよう！ 叙述用法のみの形容詞

叙述用法しかない **alone**, **asleep**, **alike** などは、似た意味の形容詞 (**lonely**, **sleeping**, **similar**) との使い分けに注意すること。

○ a **lonely** girl (孤独な少女) × an **alone** girl

○ a **similar** face (よく似た顔) × an **alike** face

叙述用法のみの形容詞 ※ a- から始まるものが多いことを押さえておこう。

afraid (恐れて), alike (似て), alive (生きて), alone (単独で), anxious (心配な, 切望して), ashamed (恥じて), asleep (眠って), aware (気付いて), content (満足して), glad (喜んで), unable (できない), well (健康な) など

【！】 **anxious** などは続く前置詞句によって意味が異なるので、整理しておこう。

Mother **was anxious about** [for] her son's safety.

母親は息子の安全を気にかけていた。

I'm **anxious to** see you in Tokyo.

東京であなたにお会いするのを楽しみにしています。

We **are anxious for** Mary to accept our offer.

メリーが私たちの申し出を受け入れてくれるのを切望しています。

3 限定用法と叙述用法で意味が異なる形容詞

10 We felt relieved by Saeko's **positive** attitude. [限定用法]

848

紗栄子の前向きな姿勢に私たちは救われた。

11 I am **positive** that our team will win the game. [叙述用法]

849

うちのチームは試合に勝つと私は確信している。

10の positive は限定用法で、「前向きな」という意味になるが、11は〈be positive that ...〉の形の叙述用法なので、「…だと確信している」という意味になる。

類例 His recovery will have **positive** effect on the team.

彼の復帰はチームによい影響をもたらすだろう。

This is my bicycle. I'm **positive**. これは私の自転車です。絶対にそうです。

練習問題 2：太字の形容詞の意味に注意して、
以下の英文を日本語に訳しなさい

→解答 p.559

- ① a. She didn't attend the meeting for a **certain** reason.
b. She is **certain** to take over her father's business.
- ② a. The plan seems to be impossible in the **present** situation.
b. Those **present** at the conference objected to the plan.
- ③ a. He is always **late** for appointments.
b. He is now in his **late** thirties.

発展 色を表す形容詞の比喩的・象徴的用法

日本語には、「真っ赤なうそ」「白々しいうそ」といった色を表す形容詞が比喩的・象徴的な意味で使われることがあるように、英語にも色を使った独特の慣用表現が数多くある。英語と日本語の表現を見比べて、共通点・相違点を確認してみると興味深い。

▽ blue

feel **blue** (くだけて) ブルーだ、気分がふさいでいる、憂鬱である

blue blood 貴族の血統

out of the **blue** (くだけて) だしぬけに、突然に [a bolt from [out of] the **blue** (青天の霹靂) という表現もある]

once in a **blue moon** ごくまれに

▽ red

be in the **red** 赤字である (くだけて) (⇒ be in the black 黒字である)

[get into the **red** (赤字になる)、や bleed **red** ink ((くだけて) 〈会社・商売などが〉大赤字を出す) という表現もある]

go [turn] **red in the face** (怒り・困惑・羞恥で) 顔が赤くなる

[as **red** as a beet ((米・くだけて) (恥ずかしくて) ビート (赤カブ) のように赤面して) という表現もある]

▽ white

see things in black and **white** 物事を白か黒か単純化してみる [必ず black and white の順]

a **white flag** (降伏・休戦を示す) 白旗 [降伏, 休戦]

a **white lie** 罪のないうそ

▽ **black**

be in the **black** 黒字である

the **black** sheep of the family 家族の中の厄介者

▽ **green**

green youth 未熟な若者 (John is young, very green, but very willing.
(ジョンは若く、未熟だが、心構えはできている) のように叙述用法で用いる事が多い)

have a **green** thumb 園芸の才がある

go **green** 環境保護に方針を転じる

be **green** with envy 《くだけて》ひどく妬んで、うらやんで

give A the **green** light A 〈人・計画〉にゴーサインを出す

1 他動詞から派生した分詞形容詞

12 That was such an **amazing** story.

850

それはとてもわくわくするような話だった。

13 I was **amazed** at how much progress Noriko has made in English.

851

私は憲子の英語の上達にびっくりした。

他動詞から派生した分詞形容詞

●現在分詞 **doing** = 「…する・させるような」という〈能動的〉な意味

●過去分詞 **done** = 「…される（た）」という〈受動的〉な意味

よって、上の例では、元の他動詞 amaze の「…を驚かせる」という能動的な意味から、 amazing は「〈人・物・事が〉 驚かせるような、 すばらしい」という意味の形容詞になるのに対して、 amazed は「〈人が〉 驚かされた」という受動的な意味を表す形容詞となる (→ pp.154-155)。形容詞化しているので、 very で修飾できる。

類例 “Tomorrow’s show is going to be very **exciting**.” “Yeah, I’m so **excited** about it!” 「明日のショーはすごくエキサイティングになりそうだよ」「ああ、 今からワクワクしているよ」

It was **surprising** that he didn’t come to the party.

彼がパーティに来ないとは驚きだった。

The train for Osaka was so **crowded**. 大阪行きの列車はとても混んでいた。

他動詞の現在分詞から派生した形容詞

amazing / astonishing (驚くべき), amusing (愉快な), annoying (うるさい),

boring (退屈な), disappointing (がっかりさせる), embarrassing (当惑させるような),

exciting (わくわくさせるような), frightening (恐ろしい), interesting (興味深い),

puzzling (当惑させる), satisfying (満足のいく), shocking (衝撃的な),

surprising (驚くほどの) など

他動詞の過去分詞から派生した形容詞

amazed (驚いた), amused (おもしろく思う), bored (退屈した), confused (混乱した),

delighted (とても喜んだ), disappointed (がっかりした), excited (わくわくした),

frightened (おびえた), hidden (隠れた), interested (興味を持った),

irritated (いらいらした), pleased (喜んだ), puzzled (当惑した), satisfied (満足した),

surprised (驚いた), tired (疲れた), worried (心配して) など

1 many, much

16 How many guitars do you have? [数]

854

あなたはギターを何本もっていますか。

17 I don't have much money in my bank account. [量]

855

私の銀行口座にはお金があまりない。

「数 (number)」が多い → many + 可算名詞 (複数形)

「量 (amount)」が多い → much + 不可算名詞 (単数形)

many, much は疑問文・否定文・条件文で使われることが多い。

類例 Do you have **many friends** at school? 学校には友だちがたくさんいますか。You shouldn't waste **much time** playing computer games.

あまりたくさんの時間をコンピュータゲームに費やすべきではないよ。

Not **many people** in our town speak English.

私の町で英語を話す人はあまりいない。

How **much luggage** can I carry on? どれくらいの荷物を持ち込めますか。

ここが Point! 肯定文の many / much

many, much は肯定文で用いると (かたく) 韶ぐ。

1) **主語を修飾する場合**には many, much が肯定文で用いられることがある。**Many** [(くだけて) A lot of] *students* from our class came to the concert.

うちのクラスの多くの人が、そのコンサートに行った。

Much [(くだけて) A lot of] *time* has passed since I left Japan.

私が日本を離れてから随分と時間が経った。

2) **as, so, too** に続く場合には many, much が肯定文で用いられる。I saw **so many people** coming to attend her funeral.

彼女の葬式にあんなにもたくさんの人が弔問に訪れるのを見た。

Be careful not to spend **too much money**.

お金を遣い過ぎないように気をつけなさい。

3) **慣用的副詞句**for (**many,**) **many years** 何年もの間、長年にわたって

〔many は強意的に繰り返されることがある〕

many times 何度も**many years ago** 何年も前に

〔時・度量衡の表現には通例 a lot [lots] of は用いない〕

in **many ways** [cases, places] 多くの点〔場合、場所〕で

●数量が多い・少ないことを表すその他の表現

	多い	少ない	名詞
数	a great [large, good] number of	a small number of	可算名詞（複数形）
量	a great deal of a large amount of	a small amount of	不可算名詞

A large number of *tourists* visit Okinawa every year.

毎年多数の観光客が沖縄を訪れる。

My father lost **a great deal of** *money* in the stock market.

父が株で大金を失った。

Having a house with a pool would cost **a large amount of** *money*.

プール付きの家を所有するには多額の金がかかるだろう。

He has written **a large number of** novels and a handful of plays.

彼は長編小説を多数、そして戯曲を数本執筆している。

I made **a small number of** *spelling mistakes* in my paper.

レポートで少しスペルミスをしてしまった。

The patient lost **a large amount of** *blood* during the operation.

その患者は手術中に大量に出血した。

He has done a lot of work in such **a small amount of** *time*.

ほんの少しの時間で、彼はたくさん仕事をこなした。

これ以外にも、以下のような表現もある

- **dozens of** + 可算名詞 (何十もの、たくさんの)

〔文字どおり「何ダースもの」というより漠然と数が多いことを表す〕

- **hundreds of** + 可算名詞 (何百もの)

- **thousands of** + 可算名詞 (何千もの)

- **tens of thousands of** + 可算名詞 (何万もの)

- **millions of** + 可算名詞 (何百万もの、無数の)

Hundreds of workers have been laid off. 何百人という労働者が解雇された。

Tens of thousands of people came to the rock festival.

何万という人々がそのロックフェスに詰めかけた。

※ いずれも、「何十・何百…もの」ということで、ひとかたまりの単位となっている **dozen / hundred / thousand / million** などの単位が複数形になっていることに注意（この **s** を忘れがち！）。

The company spends **millions of** dollars a year on advertisement.

その会社は広告費に年間何百万ドルをも費やす。

※ (くだけて) で、 **a thousand / a million** + 可算名詞で「無数の」という誇張表現もある。

A thousand [million] thanks for your kindness. ご親切本当にありがとう。

cf. **Thanks a million.** ((くだけて) 本当にどうもありがとう) という表現もある。

3 (a) few, (a) little

21 There were **a few** mistakes in my English composition. 859
 [a few + 可算名詞] 私の英作文には少し間違いがあった。

22 I have **a little** money with me today. [a little + 不可算名詞] 860
 今日は少しならお金を持っている。

23 There were **few** mistakes in my English composition. 861
 [few + 可算名詞] (ややかたく) 私の英作文にはほとんど間違いがなかった。

24 I have **little** money with me today. [little + 不可算名詞] 862
 (ややかたく) 今日はお金をほとんど持っていない。

	少しはある（肯定的）	少ししかない（否定的）	名詞
数	a few	few	可算名詞（複数形）
量	a little	little	不可算名詞

※不定冠詞 (a) がつくと「少しはある」という肯定的な意味になり、不定冠詞がないと「少ししかない」という否定的な意味になることに注意。

類例 I have **a few** books written in English.

私は英語で書かれた本を何冊か持っている。

I had **a little** time to visit temples in Kyoto.

京都では少しだけお寺巡りをする時間があった。

● few / little を使った重要表現

	かなりある	ほんの少ししかない (few / little の強調)	名詞
数	quite a few (かたく・やや古) not a few	very few only a few	可算名詞（複数形）
量	quite a little (かたく・文) not a little	very little only a little	不可算名詞

※ not a few [little] は（かたく・文）で、「少なからぬ…」という日本語と似ている。

quite a few [little] は（控えめに「かなり少ない」と言っておいて、その実は反対の意味を表すという）反語的なニュアンスで用いられている。

類例 Quite [Not] **a few** students in our class own their smartphones.

うちのクラスでは、かなり多くの生徒が自分のスマートフォンを持っている。

There was **very** [only a] **little** food left in the fridge.

冷蔵庫に食べ物がほとんど残っていなかった。

It took me **quite a little** time to finish this task.

この仕事を片付けるのにかなり時間がかかった。

Very [Only a] **few** people know what really happened.

何が起きたのかを知っている人はわずかだった。

【!】 **several** は不定の数を表す。3～4, 5, あるいは10以上を指すこともある。

〔**a few** は相対的に「少ない」というニュアンスを持つが、**several** には同じ数でも「多い」という含みがある。よって、**only a few** という表現はあるが、× **only several ...** とはしない〕

特に強勢を置いて発音すると数が多いことを示す。

We spent **several** days at our grandfather's place.

私たちは祖父の家で数日過ごした。

4 enough

25 We have more than **enough** seats for everyone.

863

全員が着席しても十分な数の席が用意してあります。

26 I didn't have **enough time** to finish my homework.

864

宿題を終わらせるのに十分な時間がなかった。

形容詞の **enough** は「十分な」という意味で、可算名詞（複数形）、不可算名詞の両方に使える。

【!】 **enough** は通例 〈**enough + 名詞**〉 の語順で使う。〔〈**名詞 + enough**〉 の語順は（やや古）〕

enough の「十分な」はある目的を果たすのに最低限必要な数量があるという意味で、日本語の「十分」が時に意味するように「たっぷりある」というニュアンスはないので注意。何に対して十分なのかを示すために、**for ... / to do** が後ろに来ることが多い。

I didn't have **enough money** [**money enough**] **for** the bus fare.

私はバス代に十分なお金がなかった。

※形容詞を修飾する副詞の **enough** は形容詞の後に置く。

He is not **old enough to** go to school.

彼はまだ学校へ行く年齢に達していない。

ここが Point! 2つ以上の形容詞を並べる場合の順序とは?

複数の形容詞がひとつの名詞を修飾する場合には、以下のような基準が大まかに存在している。

- all, both はすべての修飾語の前に置く
- 冠詞、冠詞に近い機能を持つ限定詞（指示代名詞や人称代名詞の所有格など）
- 数量を表す形容詞（数詞など）
- 性質・状態を表す形容詞（順序には厳密な規則はないので以下はあくまで目安）
 - ・話し手の主観的判断・評価を表す形容詞を前に置く
 - ・名詞の本質に関係が深いものほど名詞の近くに置く

おおよそ〈主観〉→〈客観〉の順だと押さえておき、あとは用例に親しむ方が良いだろう。

all / both	a	序数 →基数	主観的判断 →大小 / 長短 / 形	新旧 →色	材料 / 所属	名詞
	the this / that など (限定詞)					
	the	last two	small star-shaped	new red	wooden European	houses

練習問題3：カッコ内を埋める適切な語句を選択しなさい

→解答 p.566

- ① How () snow will we get this winter?
① many ② much
- ② Luckily, we did not have () problems.
① many ② much
- ③ There was () juice left in the glass.
① few ② little
- ④ I found () good books in that bookstore.
① a few ② little



(3) 数詞+名詞=形容詞

数詞を名詞とハイフン (-) でつなぎ、年齢・時間・数量などを表す形容詞として使うことができる。この場合、形容詞的に使われている名詞は単数形。

a **four-year-old** child 4歳の子供 (× a four-years-old child としない)

a **five-minute** test 5分のテスト (× a five-minutes test としない)

a **six-foot-tall** man 身長6フィートの男性 (× a six-feet-tall man としない)

その他の数量表現

・特殊な語

fortnight (= two weeks) 2週間 [(主に英)]

score (= twenty years) (書) 20年 [*数の後では単複同形]

in a fortnight's time (2週間のうちに)

Four score and seven years ago our fathers brought forth on this continent ... 87年前、我々の父祖はこの大陸に…

〔リンカーンの the Gettysburg Address の冒頭〕

It's almost **two score** years and ten since my father passed away.

(書) 父が亡くなってから、もう50年ほどになります。

・その他の特殊な語

annual (毎年の) biennial (2年に一度の、隔年の)

triennial (3年に一度の) quadrennial (4年に一度の)

centennial (〔主に米/英・かたぐ〕100年 [祭] の、100年ごと [間] の)

centenary (〔主に英〕百周年記念 [日] の)

bicentennial (〔米〕200年 [祭] の、200年ごと [間] の; 〔英〕は bicentenary)

millennial (1,000年の) millennium (〔かたぐ〕1,000年間、1,000年祭)

・通貨: penny (pence) shilling sterling など

・度量衡: pound acre yard foot (feet) inch など

Grammar in Writing

頭字語で遊ぼう

「なぜ外国語を学ぶのか」というトピックで書くとします。

Why do you study another language? There are three purposes. One is the academic purpose. Knowledge is published in different languages. By learning those languages, you can access the knowledge. Another purpose is the business purpose. In this globalized economy, you need to speak more than one language for business communication. The last is the cultural purpose. When you learn a language, you also learn the culture behind it. Knowing different cultures helps you to appreciate different values. When you achieve these purposes – **academic**, **business**, and **cultural** – you will **deepen** your understanding of the world, **engage** in the global life activity, and **find** meaning in your life on earth.

なぜ外国語を学ぶのか？目的が3つある。1つは、学術の目的である。知識は、いろいろな言語で公刊されている。それらの言語を学ぶことで、その知識を手に入れることができる。もう1つの目的は、ビジネスの目的である。このグローバル化した経済の中では、ビジネス・コミュニケーションのために2つ以上の言語が話せる必要がある。そして、最後が、文化の目的である。言語を学ぶときには、その背後にある文化も学ぶ。異なる文化を知ると、異なる価値観が理解できるようになる。これら3つの目的、つまり、学術(Academic)、ビジネス(Business)、文化(Cultural)を達成したとき、世界についての理解が深まり(Deepen)、地球規模の生命活動に参画でき(Engage)、そして、この世界に生きる意味を見つける(Find)だろう。

分かりやすいように太字にしておきましたが、3つの目的の頭文字を並べるとABCとなり、そこから得られるものを3つ並べるとDEFとなっています。このように、いくつか列挙するもののスペリングを工夫して頭字語(acronym)を作ることは、英語の文章ではよくあります。たとえば、伝わる文章を書くための心構えを3Cs(Correct, Clear, Concise)やKISS(Keep It Short and Simple)と呼ぶようなことです。もちろん、形容詞に限った話ではなく、他の品詞でも可能です。高度な言葉遊びのように思えるかもしれません、ちょっとした工夫で自分の伝えたいことを読み手に強く印象付けることができますので、ぜひ挑戦してみてください。